

篠川事務所の”ホット”通信

2016年4月号

税理士・中小企業診断士 篠川徹太郎事務所

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-5-4

ライオンズマンション横浜鴨居102号

電話：045-620-0725 F A X：045-620-3843

<http://shinokawa-office.com>



ホットな話題をほっとするような分かりやすさでお伝えする“ホット”通信・・・VOL.20をお届けします。

春は新生活スタートの時期ですね。当事務所でも引っ越しすることになりました。引越先は鴨居駅近くのビルの一室になります。詳細は追って正式にご案内致します。

【法人に対する利子割が廃止されました】

平成二十五年度の税制改正により、平成二十八年一月から法人に対する利子割（地方税）が廃止されました。これにより平成二十八年一月一日以降、法人に対して支払われる預金利息等から地方税の特別徴収がされなくなりました。利子割は、銀行や信用金庫などの預金や公社債などの利子等に課税され、金融機関などが利子等を支払う際に特別徴収していました。具体的には、これまで国税と地方税を合わせて20.315%の税率で課税されていたものが、そのうちの地方税5%が廃止され15.315%になりました。仮に預金利息が10万円の場合、国税の15315円と地方税の5000円で合計20315円が特別徴収されていたものが、改正後からは国税の15315円のみとなりました。法人は、法人税割額算出の基となる課税所得に利子も含まれるので、そのままでは利子割との二重課税になってしまいます。そのため法人は利子割額を計算し、状況により控除して納税もしくは還付を受けていました。今回の利子割廃止により、法人や各都道府県はこれに伴う事務作業が軽減されることとなります。また各都道府県においては、還付金以上の振込手数料を使って還付することも少なくなかったようで、こうした負担も軽減されるようです。なお、利子割の廃止は法人だけで、個人に対して支払われる預金利息等については従来通りに特別徴収されます。



【耐久性・機能性・職人技の美しさで注目される日本の「ランドセル」】

日本の小学生の象徴である「ランドセル」が脚光を浴びています。ハリウッド女優の愛用を発端にファッションアイテムとして欧米に広まる一方、アニメで認知度が高い中国からの観光客の土産物としての需要も増えています。人気の理由は6年間の使用を前提とした耐久性や機能性に加え、職人技の美しさにあるようです。定番以外にも新たに開発されたビジネスマン向けの大人用やスポーツ仕様も好評とか。創意工夫がお家芸の日本製のブームはまだまだ続きそうです。



【今月の教えてキーワード：マイナス金利】

金利がマイナスになること。通常はお金を預けると金利を受け取ることができず、マイナス金利が、マイナス金利下では逆に手数料を支払うことになる。2016年1月、都市銀行や地方銀行などの金融機関が日本銀行に資金を預ける際の金利をマイナスとする政策が決定された。これは、金融機関が日本銀行に資金を預けると手数料が発生し損失となるため、その資金を企業への貸し付けに回すなど結果的に経済を活性化させようという狙いがある。

【だからこそ「今日」という一日を大事にしたい】

極めて短い時間を「刹那（せつな）」といいます。仏教の時間の概念において最小単位である「刹那」は、約75分の1秒だといわれています。つまり「一瞬」です。絶え間なく続いているように思える時間は「刹那」の連続で、あっという一瞬の間にすべての物事が変化していることとなります。刹那の連続で過去が現在になり、さらに未来へと連なっていくのでしょうか。この世に存在するあらゆるものは移り変わっていきます。すべてが一刻一刻、一瞬一瞬と変化して、変わらないものは何ひとつありません。それが「諸行無常」で、お釈迦様の悟りを表す言葉のひとつです。

「諸行無常」の意味を頭では理解していても、実感するのは難しいものです。久しぶりに会った人の変化には敏感でも毎日、顔を合わせている人の変化には気付きにくく、何も変わっていないように見えることさえあります。自分のことも同じでしょう。10年前の写真を見れば変化は一目瞭然ですが、1年前くらいの写真では変化が読み取れないかもしれません。けれどそれは錯覚です。私たちは1年ごと確実に変化しています。1年経てばひとつ年を重ね、その分だけ老いてもいます。1年で変化しているということは、1日ごとにも変わっているわけです。1日で変化しているのなら1時間、1分、1秒、刹那ごとにあらゆるものが変化しているのでしょうか。言い換えれば、刹那の連続で1年、10年、そして一生となっていくのです。

こうしている間にもどんどん時間は過ぎていき、すべては変化しながら少しずつ老いて人生の終わりに近づいていきます。時間は命と同じです。生まれたばかりの赤ちゃんも80歳の人、残された時間が減っていくことに変わりはありません。実感するのが難しいだけで、誰でも刹那、刹那に命が失われています。時間の無駄遣いは命の無駄遣いだと思えば、少しは「今」を大事に生きられるでしょうか。お釈迦様の悟りには達せずとも、せめて「今日一日を大事にしよう」という気持ちで毎日を積み重ね、商売に精進していきたいものですね。



横綱になったら、引退することを考える

今を生きる!

先人の言葉

第四十八代横綱である大鵬の言葉。どんな大横綱でも大社長でも年齢を重ねれば体力や知力の衰えは避けられない。上に立つものは退路を断つ勇気と覚悟が必要だ。

【賊軍の昭和史】

半藤一利と保坂正康というお二人の対談で、先の戦争における官軍と賊軍の「対立」を浮かび上がらせてゆきます。官軍の流れをくむ陸軍と海軍が突き進んでいった戦争を賊軍出身者が終らせたという解釈は、歴史の見方として興味深いものです。

